

(様式 3)

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	岡林 春雄	所属	山梨大学・大学院
研究会等名称	公益社団法人日本心理学会 ダイナミカルシステム研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 10 名 (うち認定心理士 0 名) 非会員 4 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本集会は、心理学に新しい発想をもたらすダイナミカルシステム——生きている力動的なシステム、力学系——という観点から人間心理を探究する (研究会目的)、その具体的な研究を提示するという目的をもって行われた。</p> <p>ICP2016(Yokohama, 7月29日)において、シンポジウムを行った。 TS29-13 Theoretical Frameworks of Psychology Self-Organized Mind: Fluctuation, Rhythm, and Development</p> <p>企画代表・司会 : Okabayashi, H. 話題提供 : Miao, T., Chino, N., & Okabayashi, H.</p> <p>とくに、外部から Miao 氏に来ていただき、Fluctuation in life phenomena, rule, mechanisms and observations と題して、人間には生体信号があり、その信号は、ゆらぎが重要であり、その動きはリアプノフ指数で表すことができ、その法則性をとらえることによって、その人の心理を検討することが可能である——つまり、ゆらぎが人間心理を表している——ことを発表していただいた。そして、3人の話題提供を受けて、フロアとともに討論がもたれ、人間のような、生きているシステムの特徴である自己組織化の概念等々について検討した。今回は、国際会議であったので、英語での話題提供、ディスカッションであり、フロアの方が言いたいことすべてを発言できたかどうかはわからないが、心理学周辺の力学系の研究の進み方がよくわかった。</p> <p>上記シンポジウムの前にも、研究会主要メンバーが新横浜に集まり勉強会をもったりしているが、「人間が生きている」ということをベースにデータをとれば、そのデータは非線形非平衡系のデータにならざるを得ないということが、これまで線形理論で考えてきた心理学研究者にとっては、大きなネックになっている。上記シンポジウムの成果を考えてみても、ゆらぎという非線形データをどのように扱えばよいのか、将来計画としての大きな課題である。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
公益社団法人日本心理学会 ダイナミカルシステム研究会				
研究集会開催日： 2016年7月29日(金)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	宮谷愛百合	桜美林大学	○	
2	瀧川諒子	早稲田大学	○	
3	前田優輔	桜美林大学	○	
4	石井康智	早稲田大学	○	
5	高野 智	山梨大学		
6	吉田 暁	早稲田大学	○	
7	河合優年	武庫川女子大学	○	
8	今城志保	リクルート		
9	雄山真弓	大阪大学	○	
10	清水一毅	山梨大学	○	
11	Sue, T.			
12	Miao, T.			
13	千野直仁	愛知学院大学	○	
14	岡林春雄	山梨大学	○	
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

2017年 1 月 25 日

日本心理学会研究会 2016 年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会 ダイナミカルシステム研究会

研究会番号 研 16002

助成金額 ¥30,000

年 月 日	項 目	金 額
2016年7月29日	講師（話題提供）謝礼 (1名)	¥30,000

支出合計 ¥30,000